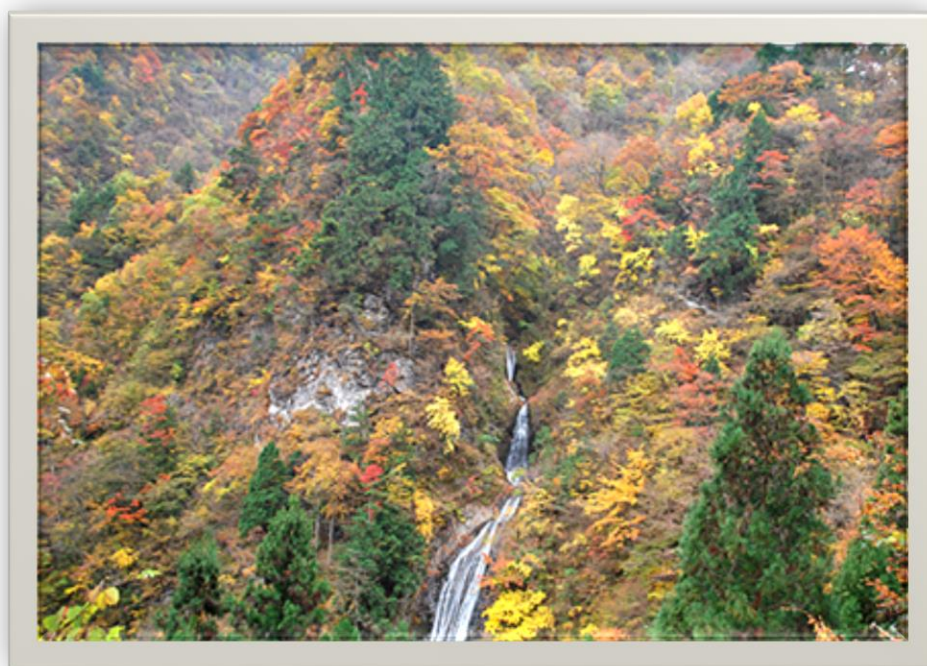


**夢と志を育む小鹿野教育
第二次小鹿野町生涯学習ビジョン**

<計画期間 令和元年度から令和5年度まで>



**令和元年5月
小鹿野町教育委員会**

目次

I 生涯学習ビジョンの策定	2
1 計画策定の趣旨.....	2
2 求められる小鹿野町の生涯学習.....	2
II 生涯学習をめぐる現状と課題	3
1 小鹿野町の現状.....	3
2 人口の推移.....	3
3 世代別の学習状況.....	4
(1) 幼少期の状況	
(2) 青年期から熟年世代の状況	
(3) シルバー世代の状況	
4 課題.....	5
III 生涯学習の計画	6
1 基本目標.....	6
2 具体目標.....	6
3 生涯学習ビジョンの実現に向けて.....	6
(1) 行政の役割	
(2) 団体の役割	
(3) 町民の役割	
4 小鹿野町生涯学習基本構想図.....	8
5 重点的な取組（施策）.....	9
施策1 ライフステージに合わせた学習機会の提供と支援.....	9
施策2 生涯学習推進体制の整備と促進.....	9
施策3 生涯スポーツと健康づくりの推進.....	10
施策4 芸術・文化活動の推進と文化財の保護・活用.....	10
施策5 人と地域を支える知の拠点としての図書館機能の充実.....	11
IV 資料	12
(1) 生涯学習施設の状況.....	12
① 文化教養施設	
② 社会体育施設	

I 生涯学習ビジョンの策定

1 計画策定の趣旨

近年の社会情勢の変化は激しく、少子高齢化、高度情報化の進展、産業構造の変化、就労・生活水準における格差の拡大、地域・人間関係の希薄化など様々な問題が懸念されています。

これからの社会は、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す「知識基盤社会」※1の時代であるといわれています。グローバル化や技術革新に伴い、絶えず新しい知識や技術の習得も必要になります。時にはそれまで自分の持っていた概念や意識を全く異なったものに転換させなくてはならないこともあります。そのために、幅広い知識や柔軟な思考力に基づく判断が一層重要になります。これは、年齢や性別を問わず、この社会で生きている全ての人々の身に起こっていることです。

こうした時代において、課題を把握し解決方法を見出す力が求められています。義務教育時に培った「生きる力」をさらに磨き、自己の自立や豊かな人生へとつなげて行くためには、自ら目標を持ち、自らを高めようとする気持ちを持ち続けることが大切です。

生涯学習は、日常生活の中で行われている「学び」という行為です。人は学ぶとき、自らを高めようとする意思を持ち、学びによって成し遂げようとする目標を抱いています。

このような考え方に立ち、これまでの生涯学習ビジョン（平成27～30年度）を継承しながら、将来を見据えた指針として第二次小鹿野町生涯学習ビジョンを策定します。

※1 知識基盤社会:変化が激しく、常に、新しい未知の課題に試行錯誤しながらも対応することが求められる社会のこと

2 求められる小鹿野町の生涯学習

近年、町民の意識の変化として、「自己実現や社会貢献」を求める声も聞かれるようになってきています。そのため、人々の絆を重視した地域づくりを目指し、学んだ成果を地域に生かす生涯学習社会を構築していくことがこれまで以上に期待されています。また、東日本大震災後、人と人とのつながりの重要性が意識される中、互助、共助に基づいた協働による町づくりが望まれています。

これまでの生涯学習に関する多くの施策は、「個人の要望」にいかに対応していくかに関心が置かれ、成果も上げてきました。しかしながら、「社会の要請」に応えることについては必要な施策を実施してきたものの課題も残しています。

こうした状況を捉え、町民が学んだ成果を地域社会等に生かすことができる生涯学習社会を構築していくことが、一層求められています。

また、本町には国、県、町指定文化財をはじめとして多くの文化遺産や自然遺産が

在しています。このため、歴史・文化や自然を将来に継承するとともに、新たな地域文化の創造につながる文化活動の振興にも取り組むことが望まれます。

本町の生涯学習の推進にあたり、生涯学習関連施設（小鹿野文化センター、両神ふるさと総合会館等）は、「人づくり・地域づくり・町づくり」を積極的に推進する拠点として期待されています。

II 生涯学習をめぐる現状と課題

1 小鹿野町の現状

本町は、平成 17 年 10 月に 1 町 1 村の合併により「小鹿野町」として新たに誕生しました。この合併により県内の町村では最も広い面積となり、広大な山岳地域を有しています。

秩父多摩甲斐国立公園において秀でた山容を形成する日本百名山の「両神山」をはじめ、クライミングの名所である「二子山」、日本一といわれる「セツブンソウ」の自生地、日本の滝百選の「丸神の滝」、平成の名水百選の「毘沙門水」など、現代人の心を和ませてくれる美しい自然と里山の景観などの魅力を備えています。

この地域を地質学上で概観すると、三山地区から西側は中・古生層からなる秩父帯と山中地溝帯が分布し、東側は「ようばけ」に見られるように、秩父盆地を構成する新第三紀層になっています。この地層からは、世界的にも珍しい大型哺乳類の「パレオパラドキシア」や魚類の一種である「チチブサワラ」などの化石が発見されています。

これまでに、立地条件や特性を踏まえた様々な町づくりを着実にを行い、多様性や個性を創出してきました。貴重な地域資源を育みながら、長年にわたって積み重ねてきた町づくりの成果が現在の姿となって地域の人々の暮らしを支えています。町民が主体となった地域づくりを促進し、各地区では祭りをはじめとする伝統行事、町民交流行事などを行っています。

また、小鹿野文化センターや両神ふるさと総合会館を中心に社会教育活動や文化活動をはじめとして、各種スポーツ教室、文化財保護活動などの生涯学習活動が盛んに行われています。

2 人口の推移

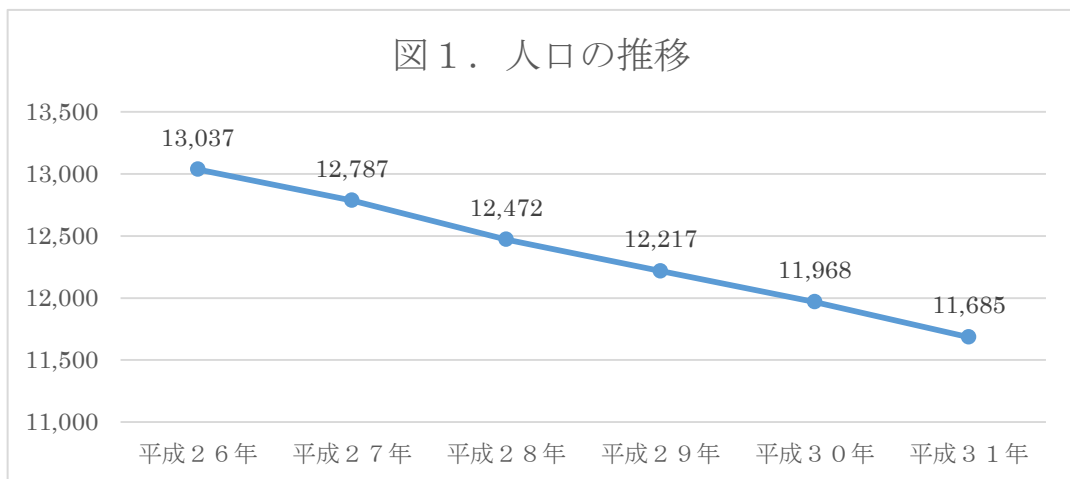
本町の平成 31 年 1 月 1 日現在の人口は 11,685 人で、前年よりも 283 人減少し、人口減少率 2.4% で東秩父村に次いで県内第 2 位となっています。（図 1）

年齢区分別における割合を見ると、年少人口（0～14 歳）及び生産年齢人口（15～64 歳）は減少傾向であるが、老年人口（65 歳以上）は増加傾向にあります。（図 2）この年齢区分別における割合のグラフから、徐々に少子高齢化もさらに進んでいくことが予

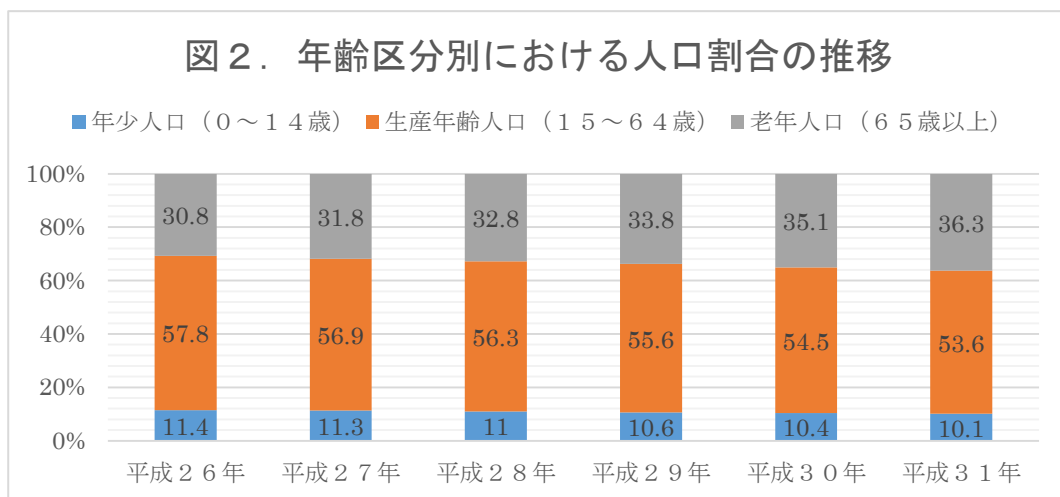
想されます。総務省統計局の資料によると将来的に本町の総人口は2025年には2005年比4,843人程の減少で33%程度の人口減少が予想されています。

このように少子高齢化が進行することが予想されることから、高齢者の不安は健康と介護に関するものが多くなります。このことから、高齢者が生涯学習を通じた社会参画を行うことで、健康維持や介護予防にも繋がることを示していくことが必要となります。

そこで、生涯学習関連施設を拠点として「高齢者」を対象とした健康寿命延伸のための健康教室等の講座、高齢者向けのスポーツやレクリエーション指導などを推進していくことが今後益々重要となります。



資料:住民基本台帳 (各年1月1日現在)



資料:埼玉県庁ホームページ「市町村別年齢階級別人口と割合(3区分)」より

3 世代別の学習状況

(1) 幼少年期の状況 (0～14歳)

本町の幼少年期の生涯学習活動は、小学校・中学校が「総合的な学習の時間」等

で地域の学習を取り入れた学習活動を行っていることに特徴が見られます。近年の少子化傾向により各地域で郷土芸能の継承に苦慮しながらも、秩父囃子や小鹿野歌舞伎、獅子舞、神楽などの継承に各保存団体が尽力し取り組んでいます。

スポーツ分野では、小鹿野町スポーツ少年団加盟 7 単位団、団員約 205 人が年間を通じて少人数ながら活発に活動を行っています。

各地域での子ども会や育成会の状況は、近年の少子化傾向に伴い各地区の組織が縮小傾向にあります。小鹿野町青少年相談員協議会では毎年 7 月中にソフトボール・ポートボール大会などの事業が行われています。

(2) 青年期から熟年世代の状況（15～64歳）

青年期から熟年世代の状況について、スポーツ分野では小鹿野町体育協会が加盟 16 団体・会員約 1,500 人で組織され、主に町内グラウンド・体育館・武道場で活動しています。

文化・芸術等の分野では小鹿野文化団体連合会が加盟 48 団体・会員約 850 人で組織され、また公民館クラブには加盟 15 団体・会員約 220 人が登録しており、小鹿野文化センター・両神ふるさと総合会館を拠点として活動しています。

(3) シルバー世代の状況（65歳以上）

町内人口の約 36%を占めるシルバー世代は、高齢化の進む当町では現役の勤労世代でもあり、各地の単位老人クラブを核に余暇を生かした学習活動が行われています。単位老人クラブは 18 クラブで、会員約 1,000 人ですが、近年の超高齢化により休止するクラブもあり、各地の単位老人クラブの組織に編制の変化が生じています。

4 課題

(1) 少子化の影響により、子どもが主体となる地域行事が衰退傾向にあることから、子ども会やスポーツ少年団などの活動内容の活発化並びに強化を図る必要があります。

(2) 生涯学習関連施設の利用状況はほぼ安定していますが、引き続き施設を適正に運営管理し、町民のニーズを汲み上げ、生涯学習の活性化を進める必要があります。

(3) 少子高齢化の進展に対しては、少子化に伴う子育て支援や異年齢交流の機会の充

実、健康・長寿及び介護に関することなどの学びの場と学びの成果を生かす場の提供が求められます。

(4) 価値観の多様化が進展する中で、新たな時代に対応できる人材の育成が求められています。そのためには、いつでも、どこでも情報を得ることができるとともに、相談体制づくりが必要です。

(5) 家族形態の変容、価値観やライフスタイルの多様化などにより、人間関係の希

薄化や家庭や地域の教育力の低下が懸念されています。

助け合いや地域コミュニティを軸とした支え合い、社会の基礎的単位である家族

の絆も深めることが必要であります。そこで、日常生活の中での学び合いを通して地域コミュニティを一層強化していく必要があります。

Ⅲ 生涯学習の計画

1 基本目標

かがやく未来へおがの人づくり

2 具体目標

☆学び、行動し、成果を分かち合う人づくり

- 1 町民一人一人の学びを支援する生涯学習
- 2 学んだ成果を地域で生かせる生涯学習
- 3 地域のネットワークの拡充を図る生涯学習

一人一人の町民が、生涯学習を通して学習する喜び、教え合う喜びなど様々な生きる喜びを分かち合うこと、つまり個人の学びから一歩踏み出し、学びの成果を社会や地域の中で生かし、「行動する人」づくり、社会や地域の中で「学びの成果が生かされる環境」づくりに焦点を当て、町民全員が生涯学習と関わり合い、コミュニティを築き、生き生きと喜びを持って生活することを目標として設定します。

(1) 町民一人一人の学びを支援する生涯学習

一人一人の状況に応じて、必要となる知識・技能や社会的課題の学習、生きがい

づくり等、学習機会の充実を図ります。

(2) 学んだ成果を地域で生かせる生涯学習

学習成果を地域や社会で生かせる仕組みづくりを進めます。実践活動に結びつく

学習や、学習成果の発表の機会を提供し、つながりのある地域社会を目指します。

(3) 地域のネットワークの拡充を図る生涯学習

地域住民、地域団体等と行政との連携・協働により、地域課題を共有し、その解

決に取り組みます。また、学校と地域の連携や協働により、地域の教育力を高め、学び合いを通じた地域づくりを推進します。

3 生涯学習ビジョンの実現に向けて

(1) 行政の役割

町民の学習活動を充実するため、民間との役割分担を図る中で、学習活動のための機会や場の提供が求められます。

- ① 町民が効果的に学習活動を進めることができるよう、学習情報の収集、提供が求められます。
- ② 町民グループ等の自主企画による学習活動を援助するなど町民自らの意欲による自主的な学習活動を支援することが求められます。
- ③ 町民の学習活動を充実するため、人材を育成すると共に、活動を援助するなど町民の学習を推進する人材や町民グループを支援することが求められます。
- ④ 町民の学習意欲を高めると共に、社会参加を進めるため、学習成果を発表する機会の提供や学習ボランティアの育成など町民の学習成果を活用する機会の充実が求められます。
- ⑤ 町民の学習活動の多様化、高度化に対応すると共に、より効果的な推進を図るため、大学、民間教育機関、町民グループなど多様な主体との連携が求められます。

(2) 団体の役割※2

企業などにおいては、教育機関との連携を深めながら、地域での講座の開催や学校に人材を派遣するなど、地域社会への貢献活動を充実すると共に、従業員のボランティア活動を促進していくことが求められます。

- ① 大学、専門学校など高等教育機関は、幅広く専門的な内容の学習機会を提供することが求められます。
- ② 文化、スポーツなどの目的団体、自治会（区長、民生委員）、子ども会、青年団体、老人クラブなどの地域団体、商工会などの構成団体は、活動を発展させると共に団体間の連携、協調を促進し、協働による地域づくりの一翼を担うことが期待されます。

※2 団体：①高校、専門学校、大学など高等教育機関②町内外の会社等の企業③文化団体連合会、公民館クラブ加盟団体、小鹿野町体育協会④町内外のNPO法人、JAちちぶ、西秩父商工会など

(3) 町民の役割

町民自らの学習活動が、自己の実現を図り、活動そのものが地域に生かされ、地域の発展に連動することが求められます。

- ① 町民一人一人、身近なところから行動し、生涯学習に取り組むことが求められます。
- ② 自己実現や生活の向上を目指し、主体的に学習活動に取り組む上で、学習サービスの受益者として適正な自己負担をすることに対する理解が求められます。
- ③ ボランティア活動や町づくりなど、学習した成果を社会に還元することに関心をもち、自己実現の一つの機会として、地域社会において積極的に活躍することが求められます。

4 小鹿野町生涯学習基本構想図

【基本目標】

かがやく未来へおがの人づくり

【具体目標】（目指すテーマ）

☆学び、行動し、成果を分かち合う人づくり

①町民一人一人の学びを支援する生涯学習

②学んだ成果を地域で生かせる生涯学習

③地域のネットワークの拡充を図る生涯学習

【基本方針】

I ライフステージに合わせた学習機会の提供と支援

・ 幼少期から高齢期までの世代ごとに、常に生きがいや目標を持って、豊かに生

生きと人生を歩んでいくための学習を支援します。

II 生涯学習推進体制の整備と促進

- ・町民がいつでも・どこでも学べるような協力体制を確立し、関係する個人や団体等との交流・連携を強化します。

Ⅲ 生涯スポーツと健康づくりの推進

- ・既存スポーツ施設の維持管理及び有効活用を進めます。
- ・各種スポーツ団体・クラブや指導者の育成を行います。
- ・各年齢層に応じたスポーツ活動の普及を推進します。
- ・スポーツ活動の場と機会の充実を推進します。

Ⅳ 芸術、文化活動の推進と文化財の保護・活用

- ・本町の伝統芸能は、歌舞伎をはじめとして獅子舞、神楽、八木節、秩父囃子等貴

重な文化遺産があります。このため、永続的な継承を目的に関係者の保存活動や後継者の育成を積極的に支援します。

- ・国、県、町指定文化財をはじめ多くの貴重な文化財を町民や来訪者に公開します。
- ・町の歴史・文化・自然について学習できる展示・学習施設の整備を推進します。
- ・質の高い芸術文化に親しむ機会の充実を図ります。

Ⅴ 人と地域を支える知の拠点としての図書館機能の充実

- ・利用しやすい環境整備や町民ニーズに即したサービスの充実を図ります。
- ・多様な情報を提供し、課題解決に対応する支援を推進します。
- ・子どもの豊かな心と生きる力を育む読書活動の推進をします。
- ・地域の歴史や文化資料の収集保存及び提供活用を推進します。

5 重点的な取組（施策）

施策1 ライフステージに合わせた学習機会の提供と支援

① 家庭教育の推進

親子の絆の形成に始まる家族との触れ合いを通じ、生きる力の基礎的な資質や能力を育成するため、子どもの発達段階に応じた体系的・総合的な学習機会を提供していきます。

② 青少年教育の推進

青少年が社会の責任ある一員として成長していくためには、豊かな人間性や協調性などを身に付けることが必要であるため、地域社会において大人や多様な年齢層の人々と触れあい、また、自然体験をはじめ文化・芸術などの参加体験型学習の拡充に努めます。

③ 成人教育の推進

グローバル化や高度情報化等の現代社会に対応する学習機会の拡充を図ります。また、地域の担い手として活躍できるよう気軽に参加できる講座、教室を開催し、自己研鑽やキャリアアップにつながる事業内容の充実にも努めます。

④ 高齢者教育の推進

高齢者が、それまでの長い人生の中で培ってきた豊かな知識・経験を活かせる

機会を見出して、地域社会の指導者として活躍できるよう、高齢者の生きがいや健康増進のための学習機会の充実に努めます。

⑤ 人権教育・啓発の推進

配偶者などからの暴力、子どもの人権、高齢者・障がい者、LGBT（性的少数者）、同和問題等の人権問題解決のための人権教育・啓発を学校や地域社会など、様々な機会や場所において行います。

施策2 生涯学習推進体制の整備と促進

① 学習環境の整備

生涯学習環境を整備していくため、生涯学習関連施設は町民がいつでも・どこでも・学びたいときに学べるような体制を確立し、関係する個人や団体等との連携を強化します。

② 学習機会の創出

生涯学習関連施設や文化団体連合会をはじめとする団体と連携を深めるとともに、町民やNPOなどと協働した生涯学習事業の展開に取り組みます。

③ 学習機会の充実

生涯学習に関する多様な情報提供・情報発信の充実を図るとともに、高度情報化社会に対応するため、ICT関連の講座開設に取り組みます。

④ 人材の確保

新しい講座や教室に対応するため、講師として専門的な知識・技術を有する人材の確保やボランティアの募集などに努めます。

⑤ 拠点施設の維持管理と活用

生涯学習関連施設の適正な維持管理を行うとともに、教育財産管理計画に基づき老朽化した施設の統廃合や整備、適正な規模の確保並びに配置に努め、施設の有効活用に取り組みます。

施策3 生涯スポーツと健康づくりの推進

① 既存スポーツ施設の維持管理及び有効活用

各スポーツ施設などは、教育財産管理計画に沿って維持管理を行います。また、交流人口の増加や町の経済的潤いを目的に、町内の宿泊施設等と連携しながら体育施設を活用し、合宿誘致を促進します。

② 各種スポーツ団体・クラブや指導者の育成

町民がスポーツやレクリエーション活動を自主的に実施できるよう支援体制を強化し、体育協会をはじめとする活動母体の育成と活動の活性化を図ります。また、町民のスポーツ・レクリエーションに関する参加意欲を高め、自ら生涯スポーツの普及に携わる指導者を育成します。

③ 各年齢層に応じたスポーツ活動の普及

幼児から高齢者までの各ライフスタイルに合った「いつでも」「だれでも」「どこでも」楽しめる生涯スポーツ等の普及や促進に取り組みます。また、幼児や青

少年期からのスポーツ活動を推進し、将来的な健康寿命の延伸を図ります。

④ スポーツ活動の場と機会の充実

小鹿野町スポーツ推進委員会・小鹿野町体育協会・スポーツボランティアと協働しながら、学校や町民向けの各種スポーツ教室等を企画・運営することで、児童生徒や住民一人一人が思い描くスポーツライフの実現を支援し、スポーツ人口の増加を図ります。

施策4 芸術・文化活動の推進と文化財の保護・活用

① 芸術・文化活動の推進

文化活動や文化交流の中で自らの生活の質を高め、自己実現を図れるよう、だれもが文化活動に参加しやすい環境の整備に取り組みます。

② 文化財保護と活用の推進

国、県、町指定文化財をはじめ多くの貴重な文化財を町民や来訪者に公開し、歴史・文化・自然について学習できるよう整備を推進します。

③ 伝統文化継承活動の推進と伝承後継者の育成

伝統や文化を失われた記憶としないよう積極的に保護・保存し、未来へ伝えていくため、伝承後継者の育成に取り組みます。

④ 地域の特色ある食文化継承活動の推進

地域の郷土料理や伝統食等の食文化の保護・継承に取り組みます。

施策5 人と地域を支える知の拠点としての図書館機能の充実

① 利用しやすい環境整備や町民ニーズに即したサービスの充実

蔵書のスペースを拡張し人口規模に応じた蔵書数を目標に資料の収集に努めます。また、地域の実情に合わせたサービスの提供に努めます。また、最新の情報を提供するため、オンラインデータベースの利用も進めていきます

② 多様な情報を提供し、課題解決に対応する支援の推進

地域の情報拠点として、課題解決に役立つ資料の充実を図り、専門的な知識のある職員（司書）によるレファレンスサービスの充実に努めます。また、専門職員（司書）の配置と人材の育成に努めます。

③ 子どもの豊かな心と生きる力を育む読書活動の推進

学校図書館との連携を強化し、学校図書館支援員の更なる活用に努め、子供たちの「生きる力」を育むための支援を行います。また、子供の発達段階に応じた読書活動を支援します。

④ 地域の歴史や文化資料の収集保存及び提供活用の推進します

郷土の歴史や文化を後世に伝えるために、郷土資料を網羅的に収集し、保存と

検

供に努めます。また、地域資料の保存と活用を図るためのデジタル化についても
討していきます。

IV 資料

(1) 生涯学習施設の状況

本町の生涯学習施設は、建設後、年数を経過した施設が多く、過去においても、必要に応じて改修等を実施してきましたが、今後も引き続き学校等の統廃合後の学校施設の有効活用も含めて整備していかなければなりません。いつでも、どこでも、だれでもが学べる環境を提供するために、学習者のニーズに応えられるよう整備を推進します。

① 文化教養施設

ア 小鹿野文化センター（中央公民館）

施設内容	構造・面積	建設年度	概	要
------	-------	------	---	---

建物	鉄筋コンクリート 地下1階 地上2階建 3,140.4㎡	昭和59年	1階 事務室 ホール695席 楽屋1,2 大会議室 会議室1 視聴覚室 調理実習室 美術工芸室 2階 地域文化情報発信拠点施設 研修室1,2 和室 会議室2
駐車場	アスファルト舗装	昭和59年	23台 専用駐車場77台

イ ふるさと総合会館（両神公民館）

施設内容	構造・面積	建設年度	概要
建物	鉄筋コンクリート 地上3階建 1,717.2㎡	平成7年	1階 事務室 研修室ABC和室 2階 小鹿野町立図書館 視聴覚室 3階 調理実習室 研修室D 健康相談室
駐車場	アスファルト舗装	平成7年	25台

ウ 公民館分館

施設内容	構造・面積	建設年度	併設施設概要
長若分館	木造2階建306.3㎡	昭和45年	生活改善センター
三田川分館	木造平屋131.66㎡	昭和54年	生活改善センター
倉尾分館	鉄筋コンクリート3階建1,476㎡	平成4年	デイサービスセンター

エ 小鹿野総合センター

施設内容	構造・面積	建設年度	概要
建物	鉄筋コンクリート2階建1,155㎡	昭和46年	1階ホール 展示室 2階 文化財資料室
駐車場	アスファルト舗装	昭和46年	20台

②社会体育施設

名称	構造・面積・規模	建設年	概要
小鹿野町民体育館	鉄骨 1,289㎡	昭和54年	平成20年度耐震改修
小鹿野町日尾体育館	鉄骨 502㎡	平成7年	平成19年社会体育施設移管
小鹿野町飯田運動場	8,648㎡	-	幼稚園庭兼用
〃 下小鹿野運動場	12,468㎡	平成3年	平成26年改修
〃 間明平運動場	5,800㎡	-	旧間明平中学校
〃 日尾第1 グラウンド	8,158㎡	平成5年	
〃 日尾第2 グラウンド	2,182㎡	-	旧倉尾小学校
〃 両神山村広場	20,000㎡	昭和58年	

小鹿野中グラウンド`夜間照明	9基	昭和52年	昭和59年度改修
日尾運動場夜間照明	6基	平成5年	
両神小グラウンド`夜間照明	6基	昭和54年	
総合運動公園テニスコート	人工芝6面	昭和61年 昭和62年	平成20、21年度改修4面 平成29年度改修2面
〃 テニスコート夜間照明	8基	昭和62年	ナイター4面
〃 ゲートボールコート	人工芝	昭和63年	3面
〃 野球場	12,839㎡	平成9年	平成21年度改修
〃 野球場夜間照明	8基	平成9年	
〃 グラウンドゴルフ場		平成10年	天然芝12ホール可能
〃 武道場(柔道場)	695㎡	平成28年	1面
〃 〃 (剣道場)		平成28年	1面
〃 〃 (弓道場)	232㎡	平成28年	6人立
小鹿野町長若体育館	鉄骨 740㎡	昭和55年	平成30年社会体育施設移管・平成21年耐震改修
〃 三田川体育館	鉄骨 740㎡	昭和54年	平成30年社会体育施設移管・平成22年耐震改修
〃 両神体育館	鉄骨 633㎡	昭和44年	平成30年社会体育施設移管・平成21年耐震改修
〃 両神剣道場	286㎡	昭和59年	平成30年社会体育施設移管
〃 クライミングウォール		平成30年	ボルダリング壁3面
小鹿野町長若運動場	9,876㎡	平成30年	平成30年度社会体育施設移管
〃 三田川運動場	30,333㎡	平成30年	平成30年社会体育施設移管
〃 両神運動場	11,220㎡	平成30年	平成30年社会体育施設移管